

図書館に毎日行こう。学校図書館と公共図書館を最大活用し、読解力を身に着けよう。

図書館で自学自習に励もう

開倫塾

塾長 林明夫

Q：5月31日までの緊急事態宣言中も、入場制限など感染防止策の徹底を条件に、公共図書館が再開されるようですね。

A：その通りです。厳しい条件付きとはいえ、公共図書館が使えるようになることで、本当によかったと思います。



Q：なぜですか。

A：(1)学校が再開される6月1日までに、新聞を毎日30分以上読むこと、自分の好きな本を1時間以上読むこと、本を最後まで読むこと、意味のわからないことばを辞書を用いて調べること一番役立つのが、公共図書館だからです。

(2)公共図書館には、全国紙・地方紙・英字新聞など様々な新聞、様々なジャンルの本、いろいろな辞書が整備されているからです。また、新聞や辞書の閲覧スペース、読書スペース、自学自習用の学習スペースも十分にあるからです。



(3)ですから、学校休校中も万全の感染防止策を行った上で、ごく短時間でも再開された公共図書館の利用をおすすめします。毎日1回は公共図書館に行き、新聞を読み、好きな本を読み、辞書を利用し、「学習習慣」と読解力を身に着けましょう。

Q：学校図書館や公共図書館には毎日行ったほうがよいのですか。

A：(1)その通りです。学校に通学している間は、毎日1回は学校図書館に行くことを「学習習慣」とすること。

(2)市立図書館や県立図書館、区立図書館や都立図書館などの公共図書館にも、週に何回か行くことを「学習習慣」とすること。

(3)このように、学校図書館と公共図書館に定期的に行くことを、高校を卒業するまでに「学習習慣」とすること、自分の「ライフ・スタイル」とすることをおすすめします。

(4)そして、大学に入学したら大学図書館に毎日行くことです。学校を卒業して社会人になったら、公共図書館を生涯にわたって毎週定期的に訪れ、充実した人生を送ることをおすすめします。

*北関東の各県では、大学図書館の大半が大学生でなくても利用できます。ぜひ、近くの大学図書館を一度訪問してみてくださいね。東京を含め全国の大学図書館は、卒業生は毎年手続きをすれば、一生使用でします。



Q : ところで、そもそも図書館とは何ですか。

A : (1) 学校図書館は、学校の心臓部です。公共図書館は市や区、県や都などの心臓部です。大学図書館は、大学の心臓そのものです。

(2) 心臓が新鮮な血液を体の隅々にいきわたらせるのと同様に、必要で貴重な知識や情報を学生や市民などに提供するのが図書館です。

(3) 小学生、中学生のころから学校図書館と公共図書館に親しみ、高校・大学等では本格的に活用し、社会人になったら自分の生活の一部とすることです。専門分野は母校の大学図書館で一生かけて勉強することです。



Q : 図書館利用のポイントは何ですか。

A : (1) 静寂、静けさを守ることに つきます。音を立てない、大きな声で話さない、バタバタと歩かない、走らない。

(2) 本や新聞、資料は折らない、破らない、書き込みをしない。期日までに必ず返却する。

(3) 眠らない。眠くなったら帰宅する。食べ物や飲み物はカバンの中に入れておく。見えるところに置かない。

* 図書館は公共の場であることを忘れないことです。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : (1) 本気で勉強したければ、一生に何回か、数年間、開館時間から閉館時間まで終日図書館で机に向かうことです。

(2) 大学生や大学院生は、週に何日かは、大学図書館で終日過ごすことです。

(3) 社会人になって何かを本気で勉強したいときは、公共図書館で一日中机に向かうことです。

(4) 「学ぶ」とは、人生を何度も生きるために、「学び続ける」ことです(東大総長 佐々木毅先生の言葉)。図書館は自ら学ぶのに最適の場です。今から図書館に慣れ親しんでくださいね。

〔 2020年5月5日(火)
2020年6月5日(金)改訂 〕

